

平成 24 年度プロジェクト研究
調査研究報告書

教育行財政一〇〇四

学級規模の及ぼす教育効果に関する研究
(学習成果班)

進級時の学級規模拡大にともなう 学級生活の違いに対する児童の認知

報告書

平成 25 (2013) 年 3 月

研究代表者 工藤文三
(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長)

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

学級規模の及ぼす教育効果に関する研究 (学習成果班)

進級時の学級規模拡大にともなう学級生活の違いに対する児童の認知 報告書

平成二十五年(二〇一三)年三月

国立教育政策研究所

目次

結果概要	i
研究組織	iii
1. 目的・方法	1
2. 進級にともなう学級規模拡大・学級数減に関わる 学級生活の違いに関する学級活動	3
3. 進級にともなう学級規模拡大・学級数減についての 学級生活の違いに対する児童の意見	22
4. 事後聞き取りの内容（逐語録）	27
5. 総合的考察	33

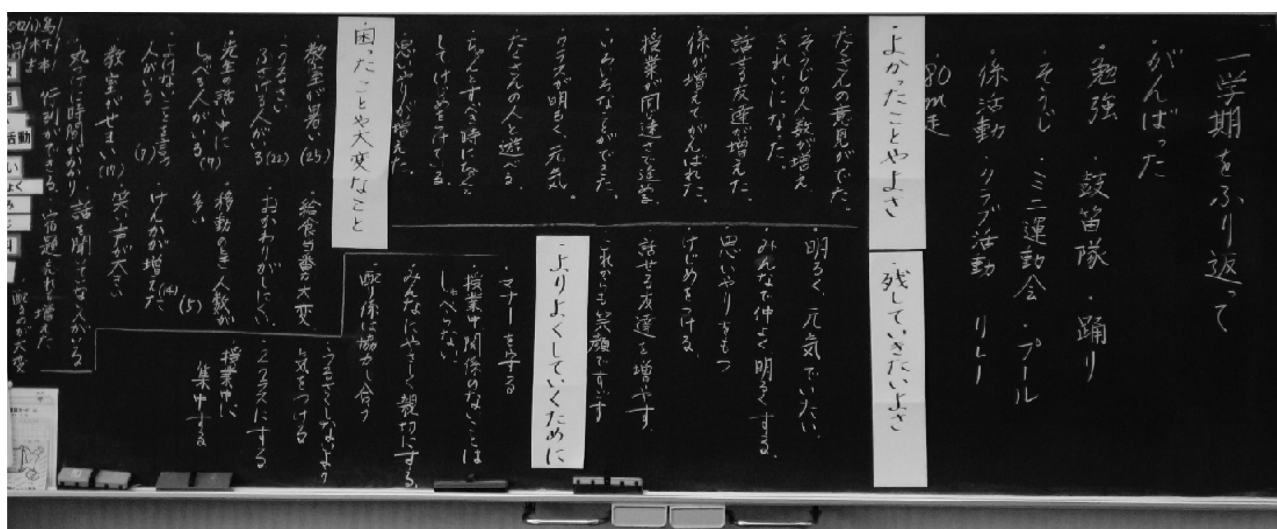
進級時の学級規模拡大にともなう学級生活の違いに対する児童の認知 結果概要

○ 目的・方法

- 学年進行にともなって自身の在籍する学級が大規模になることを児童はどのように感じたのかを事例としてまとめることで、学年進行にともなう学級規模の拡大が児童に与える影響を検討することが目的。
- 第3学年時の学年児童数が41人だったため20人、21人のいずれかの学級に在籍していたものの、第4学年に進級する際に学年児童数が39人となったため、39人学級に在籍することとなった児童を対象に、「1学期を振り返って」という内容の1単位時間（45分）の学級活動を実施。実施時期は平成24年7月。
- 学級活動では1学期の振り返りをさせつつ、4年生になって1学級となり、また学級規模が大きくなったことについて、「よかったと思うことやよさ」「困ったことや大変だなと思うこと」「2学期も引き続き残していきたいよさ」「困っていることや大変なことを改善するためにはどうしたらよいか」の4点について児童に対して発問し、ワークシートに記入させ、協議させた。
- 学級活動における教師・児童の発言は全て速記者によって記録され、分析対象とした。また、実際の学級活動では全ての児童の意見を抽出することができなかつたため、学級活動で用いたワークシートも分析対象とした。さらに学級担任を対象とした聞き取り調査も実施した。



（当日の様子）



（学級活動終了時の板書）

○ 結果と考察（児童の自由記述を中心に）

- 学級活動中に用いたワークシートの自由記述のアイディア・ユニット数を比較すると、「よかったと思うことやよさ」については96個、「困ったことや大変だなと思うこと」については198個。児童1人あたりに換算すると、前者は2.5個、後者は5.2個であり、学級規模の拡大や単学級になったことで困ったことの方が倍以上。
- 児童どうしの相互作用：利点として「たくさんの友達と仲良くできる」を挙げた児童は42.1%。難点として「友達とのトラブルが増えた」(39.5%),「ふざける人が増えた」(31.6%),「乱暴やいたずらが増えた」(15.8%)が挙げられた。
- 授業：利点として「多様な意見が出る」を挙げた児童が23.7%。難点として「うるさい」(65.8%),「先生の話が聞こえない」(13.2%),「発表や発言の機会が少なくなった」(10.5%),「授業が進まない」(7.9%)が挙げられた。
- 日常的な学校生活：利点として「人数が増えたのでお楽しみ会やいろいろなことができる」「ひとつのことがみんなで協力してできる」といった「協力していろいろなことができる」ことを挙げた児童が26.3%。難点として「(ノートの丸つけを含めて) 順番を待つ時間が長い」(23.7%),「机が多くて掃除が大変」(13.2%),「給食当番が大変」(13.2%)等が挙げられた。
- 教室環境：利点は挙げられなかった。難点として「暑い」(63.2%),「狭い」(44.7%)が挙げられた。

「1クラスになって、よかったことやよさは、どんなことですか。」に対する自由記述の分類結果

分類	出現率
たくさんの友達と仲良くできる	42.1%
明るく楽しい・元気・賑やか	39.5%
協力しているいろいろなことができる	26.3%
多様な意見が出る	23.7%
思いやりが増えた	21.1%
係が増えた	13.2%
掃除がきれいにできる	13.2%
楽しく真面目に授業を受けられる	13.2%
けじめがつけられるようになった	7.9%
授業進度が揃う	5.3%
その他	10.5%

「1クラスになって、困ったことや大変なことは、どんなことですか。」に対する自由記述の分類結果

カテゴリー	出現率
うるさい	65.8%
暑い	63.2%
せまい	44.7%
友達とのトラブルが増えた	39.5%
ふざける人が増えた	31.6%
順番を待つ時間が長い	23.7%
乱暴やいたずらが増えた	15.8%
机が多くて掃除が大変	13.2%
給食当番が大変	13.2%
先生の話が聞こえない	13.2%
発表や発言等の機会が少なくなった	10.5%
配り係が大変	10.5%
宿題忘れや忘れ物が増えた	10.5%
意見があわない	7.9%
授業が進まない	7.9%
活動に時間がかかる	7.9%
ルールが変わって大変だった	5.3%
移動が大変	5.3%
係や当番が嫌	5.3%
物を大切にしくなった	5.3%
その他	26.3%

研究組織（学習成果班）

○ 所内委員

- ・ 加 藤 弘 樹 研究企画開発部総括研究官
- ・ 工 藤 文 三 初等中等教育研究部長（研究代表者）
- ・ 萩 原 康 仁 教育課程研究センター基礎研究部総括研究官
- ・ 藤 原 文 雄 初等中等教育研究部総括研究官
- ・ 松 尾 知 明 初等中等教育研究部総括研究官
- ・ 山 森 光 陽 初等中等教育研究部総括研究官

○ 所外委員

- ・ 有 馬 道 久 香川大学理事
- ・ 磯 田 貴 道 立命館大学文学部准教授
- ・ 遠 藤 忍 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程
- ・ 大 内 善 広 城西国際大学福祉総合学部助教
- ・ 小 川 正 人 放送大学教養学部教授
- ・ 岸 野 麻 衣 福井大学大学院教育学研究科准教授
- ・ 篠ヶ谷 圭太 日本大学経済学部助教
- ・ 田 端 孝 司 京都府教育庁指導部学校教育課総括指導主事
- ・ 長 南 博 昭 山形県教育委員会委員長
- ・ 中 本 敬 子 文教大学教育学部准教授
- ・ 廣 森 友 人 明治大学国際日本学部准教授
- ・ 前 田 啓 朗 広島大学外国語教育研究センター准教授
- ・ 松 宮 功 京都府総合教育センター研修・支援部長
- ・ 山 下 絢 日本女子大学人間社会学部専任講師

平成 25 年 1 月現在

※ 「学級規模の及ぼす教育効果に関する研究」では、学級規模と授業構成の関連等を検討する「学習指導班」と、学級規模と児童生徒の学力の発達的变化の関連等を検討する「学習成果班」の2つの研究班を組織している。本報告書は「学習成果班」の研究成果である。

1. 目的・方法

1.1 背景と目的

本研究プロジェクトではこれまで、学級規模の大小が児童生徒に与える影響を中心に検討してきた。しかし、学級規模の大小のみならず、進級等によって学級規模が変化することが児童生徒に及ぼす影響も無視できない。そこで、学年進行にともなって自身の在籍する学級が大規模になったことを児童はどのように感じたのかを事例としてまとめることで、学年進行にともなう学級規模の拡大が児童に与える影響を検討するための資料を作成する。

1.2 対象・方法

(1) 対象

港区立小中一貫教育校お台場学園港陽小学校の4年1組を対象とした。この学級の児童は第1・2学年時には40人の単学級であったが、第3学年に進級する時点で学年児童数が41人となったため、21人と20人の2学級となった。4年進級前に2人の転出があり学年児童数が39人となったため、第4学年で39人の単学級となり現在に至っている。当日は1人の児童が欠席したため、学級活動に参加した児童は38人であった。

(2) 方法

第4学年の学級において学級担任による学級活動を行った。この学級活動では、1学期の振り返りをさせつつ、4年生になって1学級となり、また学級規模が大きくなったことについて感じていることを児童に協議させた。

この学級活動は、平成24年7月17日（火）3校時（午前10時50分～11時35分）に実施した。この学級活動では、4年生になって1学級となり、また学級規模が大きくなったことについて「よかったと思うことやよさ」「困ったことや大変だなと思うこと」「2学期も引き続き残していきたいよさ」「困っていることや大変なことを改善するためにはどうしたらよいか」の4点について学級担任が児童に対して発問し、ワークシートに記入さ

せ，協議を行った。学級活動における教師・児童の発言は全て速記者によって記録された。

なお，実際の学級活動では全ての児童の意見を抽出することができないため，学級活動で用いたワークシートも分析対象とした。また，約1ヶ月後の平成24年8月23日に学級担任を対象とした聞き取り調査を，当日の速記録の内容にもとづきながら実施した。

2. 進級にともなう学級規模拡大・学級数減に関わる 学級生活の違いに関する学級活動

2.1 学級の実態


今回記録の対象とした学級活動を行った4年生の児童は、第1・2学年時には40人の単学級であったが、第3学年に進級する際に学年児童数が41人となったため、21人と20人の2学級となった。第4学年進級前に2人の転出があったため学年児童数が39人となり、39人の単学級となり現在に至った。児童は40人規模の単学級と20人規模の2学級のどちらも体験しているため、両者の利点や難点を感じていると考えられる。

2.2 本時のねらい

「学級全体の1学期の生活を振り返り、40人規模の単学級と20人規模の2学級のよさや困っていることも考えながら、よりよい学級をつくっていくためにできることを話し合う」ことを本時のねらいとした。

2.3 本時の実際（速記録）

※個人情報保護のため、児童の名前は全て仮名に置き換えた。

学習活動（○）と 指導上の留意点（・）	担任の発問	児童の反応
<p>○ 1 学期の自分を振り返る。</p> <p>・ 日頃の生活の中で感じていることを発表させる。</p>	<p>お願いします。みんなが楽しみにしている夏休みも、もう間もなくですが、実はきょうは1学期があと3日で終わっちゃうでしょう。じゃ、1学期、みんなはどんなことをして頑張ったかなというものを、これからちょっと、4、5、6、7月を振り返って、1学期、これ一番頑張ったなということをちょっと考えてほしいの。自分で頑張ったこと、ちょっと振り返ってみて。ないっていう人いないよね。</p> <p>4、5、6、7月のこの4ヶ月間で、4年生になって頑張ったなということを書いてみましょう。じゃ、ある人、手を挙げて。山田さん。</p> <p>勉強、頑張った。頑張ったこと。山田さん、今、勉強って言ったんだけど、勉強を頑張った人、いる。</p> <p>手をおろしていいよ。ほかに頑張ったことがある人。遠藤さん。</p>	<p>(松本さん・福田さん) これから学級活動の勉強を始めます。 (児童全員) 「はい」</p>  <p>(山田さん) 勉強です。</p> <p>(8割以上の児童が挙手)</p> <p>(遠藤さん) 運動会のときにみんなが行進するときに、前へ行く鼓笛隊の曲の練習。</p>

鼓笛ね。毎日、朝練、頑張ったよね。
ほかにどうでしょう。井上さん。

(井上さん)
踊り、運動会の際の。

ほかに。中川さん。

(中川さん)
掃除です。

掃除ね。掃除当番ね。だって、いつも月曜日、すごいごみがたまるものね。掃除することね。じゃ、掃除ね。クラスのために頑張ったんだよね。
鈴木さん。

(鈴木さん)
ミニ運動会。

P T Aのね。
まだある？ 田中さん。

(田中さん)
プール。

そうだね。プール、頑張ったね。

(田中さん)
でも浮かなかったの

それは夏休みまた頑張ろうね。
林さん。

(林さん)
係の活動。

黒板、掲示係だったっけ。
まだある？ こんなにいっぱい出てきたんだけど、まだあるかな。

(児童)
「まだある」「まだいっぱいある」

小川さん。

(小川さん)
運動会。

運動会ね。
じゃ、松本さん。

(松本さん)
頑張ったかどうかわからないけど、クラブ活動。

そうだ。4年生からはクラブ活動も入ったものね。

○ 1 学期、1 学級になり、よかったことやよさ、困っていることを考え、意見を発表する。

- ・ 友達との関わりや授業の中でよかったことやよさに気づかせる。
- ・ ワークシートに記入し、発表をする。

3 回やったよ。

ねえ。じゃ、三浦さん。

リレーもそうだね。運動会ね。中村さん。

じゃ、これぐらいでいいかな。ちょっといいですか。

みんな 1 学期ですごくいろいろなこと頑張りましたね。また 4 年生になってから、新しく入ったことがありましたね。クラブ活動とかありました。

さて、4 月から、3 年生までは 1 組と 2 組に分かれていましたよね。4 年生になったらまた 1 組だけで 1 クラスになりました。さて、そこでちょっと皆さんに意見を聞きたいのですが、4 年生になって 1 クラスになってよかったなと思うことや、これは 4 年 1 組のよさだなと思うことを、これから考えてもらいたいと思います。ワークシートを用意したので、まずは自分の考えをこの黄色い用紙に書いてください。その後に発表してもらいます。

何個でもいいです。自分でよかったなと思うこととか、4 年 1 組のよさだなと思うことを書いてみてください。1 クラスになってということね。

(児童)
「でも 2 回しかやっていない」

(児童)
「3 回やったよ」

(三浦さん)
リレー。

(中村さん)
80 メートル走。

1 学期をふり返ってみよう！！
名前 ()

① 1 クラスになって、よかったことやよさは、どんなことですか。

(児童)
「何個でもいい？」

1 クラスになってよかったな。

まずはよかったところから書きます。

じゃ、名前を書いてから。何分ぐらいあったらいいでしょう。

えっ。50 分、終わっちゃうでしょう。じゃ、3 分。いいですか。名前書けましたか。じゃ、①をみんなで読んでください。さん、はい。

では3分、いきます。スタート。

ないっていうのはちょっと悲しいから、これはよかったということ、最低1つ以上は見つけてください。

さあ、どうでしょう。よかったこと、ない？

あるかな、ないかな。

それはここだよ。1 クラスになってだよ。そろそろ大丈夫ですか。あと残り 20 秒弱です。

(児童)

「1 クラスになってよかったこと」

(児童)

「よくなかったなとか」

(児童)

「50 分」

(児童全員)

「1 クラスになってよかったことやよさはどんなことですか」

(児童)

「ないって書く」



(児童)

「ある」「ない」「あるかも」

(児童)

「あるかも、野球頑張った」「いっぱい遊べる」



じゃ、みんな書けたかな。鉛筆を置きます。途中の人もちよっと鉛筆を置いてください。

もし友だちの意見を聞いたら、ああ、そうかなということがあるかもしれないから。ぜひこんなよさがあったよ、よかったことがあったよって発表してください。じゃ、まず当たっていない人からいこうかな。まだ当たっていない人はいるかな。みんな当たった。さっき。じゃ、伊藤さん。

1クラスになったことでたくさん意見が出るようになったことがよかった。ほかに。中野さん。

掃除が上手になったということ。人数が増えたからということ。なるほどね。

では、阿部さん。

1組、2組に分かれているときには1組の子としかお話ししなかったけど、1クラスになったらたくさんお話ができるようになったということ。では、藤田さん。

(児童)

「えー、まだ書けてない」「時間とまれ」

(児童)

「私、1個書けた」



(伊藤さん)

いろいろな意見が出ていいと思います。

(中野さん)

掃除が3年生のときよりきれいになった。

(児童)

「でも机が多い」「逆に机が多くなった」「逆に狭くなった」

(阿部さん)

2クラスだったときよりは、みんなと話す機会が多くなった。

そうね。去年半分 20 人しかいなかったから、係が少なかったんだよね。係が増えた。じゃ、当たっていない人。斎藤さん。斎藤さんは初めてだよね。1 クラスはね。

1 クラスだから。
じゃ、いいかな。小川さん。

いろんなことができる。
じゃ、山本さん。

そうか。クラスが明るく。
じゃ、山田さん。

たくさんの人とね、遊べる。
まだある？ 遠藤さん。

ちゃんと授業中と休み時間の
区別をつけているものね。
じゃ、もっともって言いたい。
こんなにいっぱいあるか。そう
か。
じゃ、福田さん。

何。もっと大きな声で言って
ほしいな、そこ。

(藤田さん)
4 年生で係が多くなって、頑張れたこと。

(斎藤さん)
はい。その年の授業とかがみんな
で一緒に同じクラスで進める。

(小川さん)
みんなといろいろなことができる。

(山本さん)
人数が増えて、クラスが明るく元
気になった。

(山田さん)
いろいろな人といっぱい遊べるよ
うになった。

(遠藤さん)
ふざけていいときは少しふざけた
りとかしても、ちゃんとするとき
はちゃんとすること。

(福田さん)
3 年生より先生の話をもじめに聞
く。

<ul style="list-style-type: none"> 人数が多いことで困っていることや学習する上で大変だなということに気づかせる。 ワークシートに記入し、発表をする。 	<p>まじめに聞けるようになった。すごいね。人数が増えたから頑張って聞かなきゃと思うようになった。そうか。今まで半分だったから、もしかして聞き流していた？ 3年生のとき。困ったな。</p> <p>じゃ、山下さん。</p> <p>思いやりが増えた。</p> <p>お友だちが増えたからかな。じゃ、ちょっといいですか。次にまたいきたいと思います。</p> <p>さっき、太田君は書けないな、困ったこともあるんだけどなって言ったんだよね。なので、今度は困ったこと。ああ、1クラスになって、ちょっとこれは大変だなということ。この黄色い紙はちょっと裏返しにして横に置いておいてください。</p> <p>いっぱいある。何かいっぱいあるっていう意見があるんですけど。</p> <p>書き切れなかったら、裏にも書いてください。</p>	<p>(福田さん) 3年生より先生の話をもじめに聞ける。</p> <p>(児童) 「3年生の方が聞けたかも」</p> <p>(山下さん) 2クラスより1クラスの方が思いやりが増えた。</p> <p>(児童) 「ああ、増えているかも」 1学期をふり返ってみよう！！ 名前()</p> <p>②1クラスになって、困ったことや大変なことは、どんなことですか。</p> <div data-bbox="975 1079 1423 1283"></div> <p>(ワークシートの例)</p> <p>(児童) 「これも結構いっぱいある」</p> <p>(児童全員) 「いっぱいある」</p> <p>(児童) 「先生、人の名前って使っていていいですか」</p>
---	---	---

人の名前は使いません。じゃ、次は、2 番をみんなで読んでください。さん、はい。

いくつもあるという人はいっぱい書いていいです。
時間は何分ぐらいほしいですか。

じゃ、5 分。

7 分じゃ多過ぎ。じゃ、5 分にします。

あとどうでしょうか。あと勉強のときとか、あとノートの丸をつけようというのとか……。

そろそろいいですか。あと残り 25 秒ぐらいね。

じゃ、鉛筆を置きます。いいですか。鉛筆を置いてください。

今ぐるっと回ると、ああ、その意見はやっぱり多いかなという意見がいっぱいありました。

では、手を挙げて発表してください。佐々木さん。

(児童全員)

「1 クラスになって困ったことや大変なことはどんなことですか」

(児童)

「5 分」「10 分」

(児童)

「7 分」



(児童)

「おれ、10 個あったよ」

(佐々木さん)

人数が多くて、あまりクーラーがきかない。

暑いっていうことね。教室が暑い。これ、教室が暑いということを書いた人いますか。何人ぐらい。



(児童)

「暑苦しいって書いた」「席がいっぱいって暑苦しい、狭い」「暑い」「もう汗、だらだら」

すごいね。25 人もいます。ほかに意見は。斎藤さん。

(斎藤さん)

うるさくなったり、おふざけが多くなった。

うるさいとか、ふざける人がいるって書いた人いる？　こんなにいるの。ほかに。清水さん。

(清水さん)

先生がしゃべっているときに、口をはさんであまり授業を聞かない。

ああ、お話中にね。口はさむ人いるよね。これ書いた人いる？　話し中、しゃべる人がいるって書いた人。このほかに。じゃ、福田さん。

(福田さん)

余計なことをたくさん言ったりする人がいる。

余計なことを言う。おしゃべりしちゃうということ。授業中、余計なことを言う。これ、書いた人いる？　いるんだ。ほかにどうでしょう。まだ書いていないことで。後藤さん。

(後藤さん)

教室が狭い。

(児童)

「キター」

狭い、書いた人います？　まだありますか。山本さん。

丸をつけるのね、先生のね。
行列ができちゃうんだよね。
まだある？ まだこんなにある。
じゃ、松本さん。

どうして大変。

ありがとうございます。いつも
大盛りにしていただいて。
じゃ、給食当番、大変って書
いた人いる？

いない。
ほかのこと。中村さん。

ちょっと待って。おかわりし
にくいってどういう理由。

すみません。中村さん。

一応ね。山盛りにね、食缶に
入れてもらっているんだけど
ね。
三浦さん。

(山本さん)
ノートを丸をつけているときに、
時間がかかる。

(児童)
「おれ、あと3つぐらいある」
(松本さん)
給食当番が大変。

(松本さん)
配るときとか、お盆配るときとか、
何か。
(児童)
「でもそのかわり、なんか当番や
る日数が少なくなった」「先生の
はね、給食は大盛りにしなきゃ」

(児童)
「いない」

(中村さん)
おかわりがしにくい。
(児童)
「ああ、確かに」

(児童)
「すぐとまる」

(中村さん)
おかわりする人も増えてくるか
ら、すぐになくなっちゃう。

移動のときの人数が多いのね。これ、移動のとき人数が多いと書いた人いますか。3人、5人いる。ほかに。みんなもう当たったかな。石井さん。

それはちゃんとやってこないからだね。じゃ、山崎さん。

それは、けんかが多くなったということね。

じゃ、けんかが増えたって書いたよという人いますか。そうか。でもさっき、思いやりが増えたってあったけど、けんかも増えたんだね。

じゃ、青木さん。

それは青木さんの笑いが大きいのかな。

あとまだありますか。伊藤さん。

(三浦さん)
移動のときの人数が多いから大変。

(石井さん)
教室に土を持ってくる。

(山崎さん)
人数が多くなって、ボールとかフリスビーとかやっているときに、たまたま顔に当たっちゃったりして、ああ、ごめんって言っているのに、逆切れしてフリスビーでたたいてきたりして……

(児童)
「けんか」

(児童)
「けんかが増えた」

(児童)
「先生、当たっていません」

(青木さん)
笑い声がでかい。
(児童)
「自分じゃないの」「青木だ」

(児童)
「だって、これもでかいよ」

(伊藤さん)
宿題を忘れる人が増えた。

宿題も増えたね。

ちょっと書き切れなくなっちゃいました。まだ言いたい？
じゃ、山下さん。

- 2 学期も引き続き残していきたいよさや困ったことで改善していきたいことを話し合う。
- ・ ワークシートに記入したことをもとに考えさせる。

配り係が大変ですね。
いっぱい困ったことや、大変なことが出てきました。中には共通する意見の人も出てきました。

よかったこと、それから、困ったこと、両方出てきたんですけど、よかったことで、このままこれ引き続き 2 学期も 3 学期もこうしたいいきたいな、このままやっていきたいなということ。それから、困ったことがあるんだけど、じゃ、困ったことをもっとよくしていくためにどうしたらいいのかなということをこれから考えてみましょう。

では、これを配ります。

3 番のところに、これからも残していきたいよさ、4 番のところに、困ったことや大変なことをよくするためにはどうしていきたいかを書いてください。 質問、ないですか。大丈夫、書ける？

3 番の方はこれからもこのことは残して、もっとこんなふうになったらいいなということ、もっと具体的に書いてね。4 番を書くときには、こういうことをするといいと思うという自分の考えを書いてください。

(児童)

「ああ、あそこにいっぱいいる」「あとまだある」

(山下さん)

スキル (注：家庭学習プリント) がいっぱい配るのが大変。

1学期をふり返ってみよう！！

名前 ()

③これからも残していきたいよさは、どんなことですか。

1学期をふり返ってみよう！！

名前 ()

④困ったことや大変なことをよくするためには、どうしていきたいですか。

(ワークシートの例)

<p>・ よりよい学級をつくっていくという建設的な意見が出やすいようする。</p>	<p>例えば教室が暑い、じゃどうしたらいいかな。うるさくなったと思った人、じゃどうしたらいいかな。</p> <p>先生の話し中、しゃべる人がいる。どうしたらいいかなっていうことを考えて。</p> <p>ただ頑張るだけじゃなくて、どういうことを頑張ったらいのかなということを詳しく書いてください。 井上君、いい意見書いていますね。 でも皆さん、教室が暑いのはね、28度設定になっているので、それ以上下げることができないんです。節電なの。</p> <p>算数教室はふだん人がいないから。 じゃ。ストップ。鉛筆置きます。 では、よかったこと。よさの方で、これは引き続き2学期も3学期も残していった方がいいよということはありませんか。山下さん。</p> <p>明るく元気で。本当。 あとほかにどうでしょうか。 小川さん。</p> <p>みんなで仲よくね。 ほかにどうでしょう。山口さん。</p>	<p>(児童) 「わかった」</p> <p>(児童) 「わかった。頑張る」</p> <p>(児童) 「算数教室、でもすごい寒い」</p> <p>(山下さん) 明るく元気でいたい。</p> <p>(小川さん) みんなが仲よく明るくしていけばいいと思う。</p>

思いやりを何。思いやりを持つんですか。阿部さん。

けじめをつける。それはここに残していきたい方でいい？
遠藤さん。

さらにふやすということでもいいのかな。
中村さん。

では、続いて、もっと困ったこととか、大変なことこんなにいっぱいあったんだけど、これをもっとよくしていくためにこういうことをしたらいいよということを教えてください。
石井さん。

そうか。それはみんなマナーとしてね。マナーを守ろうということね。
松本さん。

はい。
伊藤さん。

はい。
では田中さん。

(山口さん)
思いやり。

(阿部さん)
ちゃんとけじめをつける。

(遠藤さん)
大勢友だちが増える。

(中村さん)
これからも笑顔をふやしていく。

(石井さん)
笑い声が大きかったら、小さい声で笑って、手で押さえて笑った方がいい。

(松本さん)
授業中に関係ないこと以外しゃべらない。

(伊藤さん)
みんなにやさしくする。

(田中さん)
早く教室に帰って、下敷きであおぐ。

それは何を直せばいいの。それは暑いっていうこと。みんなで教室であおぐ。

でも授業中、下敷きは困りますよね。じゃ、山下さん。

配り係をみんなで手伝うということね。

協力し合うということね。まだ言いたいことある？ 小川さん。

みんなで気をつける。佐々木さん。

聞こえない。大きな声で立って言って。

それは困ったことは何のことかな。

今年はもう2クラスできないんだけど。今年は1クラス。じゃ、太田さん。

聞こえない。もっと大きな声で言って。

(児童)

「うちわを持ってきてさ。扇風機とか」「そうしたら家から扇風機」

(山下さん)

配り係さんが早く終わった人が、遅くまだ配っている人を手伝ってあげる。

(児童)

「そうしたら係が意味なくなっちゃう」「やりたい、やりたい」

(小川さん)

うるさくないように気をつける。

(佐々木さん)

2クラスにする。

(佐々木さん)

2クラスにする。

(佐々木さん)

暑いから。

(太田さん)

けんかになりそうなときは……

(太田さん)

けんかになりそうなときはしゃべらないと、けんかになったら無視する。

- 教師が1学期を振り返って、4年1組のよさや今後の期待について話を
する。
- ・1学級として頑張ってきたことを讃えられるような声かけをし、2学期も一層よい学級になるよう励ます。

けんかになったら無視しちゃ
うの。それはちょっと違うん
じゃない。
じゃ、山田さん。

暑いのは仕方ないね。もうこ
れは学校の設備だから。
最後、三浦さん。

授業に集中する。
じゃね、もっと意見いっぱい
あるんだけど、時間になって
しまったので、皆さんワーク
シートに書いてくれましたよ
ね。なので、また後で先生が、
ゆっくり読みます。
それで1学期が終わって、2
学期、3学期に残していき
たいよさはすごいいいと思
います。みんなで明るく元
気に仲よくする。思いやり
をもつ。あとけじめをつけ
るともっといいよという
意見も出てきました。あと
2組のときよりも1組にな
ったら話せる友だちが増
えてきたよというご意見
がありました。これもいい
です。スマイル。みんなが
大好きな目標にもありま
すよね。さらに困ったこ
と、大変なことでよくし
ていきたいのは、やっぱ
りたくさんの人数が
いるんだから、みんな
で気持ちよく過
ごすことができるマナ

(山田さん)

暑いときに扇風機を持ってくる。
でも扇風機を持ってきたらだめ
だから、下敷きであおぐ。

(児童)

「やばいよ。扇風機持ってきたら」

(三浦さん)

話をきちんと聞いて授業に集中
する。



一を守りましょうということ。それから、授業中は関係のないことはしゃべらないとか、あと係が協力し合うとか、授業に集中するということが出てきました。あとこれ、みんなやさしく親切にするという意見もそうだね。けんかが増えちゃうということは、ちょっとこの気持ちが減ってきているかなと思うので、ここがもうちょっと2学期、3学期が増えてくるといいのかなと思います。

たくさん。みんな、黒板、もうこんなにいっぱい。

ねえ。書き切れないぐらい意見を出してくれました。すばらしいと思います。これからも2学期、3学期は佐々木君、残念ながら2クラスにはなりません。なので、4年1組として協力して、みんなで頑張ってほしいなと思います。

それでは、集め方を言います。うしろからでいいですから、白とブルーと黄色を分けて回してください。まずブルーから。どうぞ。前に送ってください。ブルーが終わったら、次黄色です。では、最後、白。いいかな。前の方へ回してください。

では、日直さん、号令をお願いします。全員立って。お客様の方へ向いて。

いいかな。気をつけ。ありがとうございました。

(児童)

「ずっしり」



(児童全員)

「ありがとうございました」

じゃ、日直さん、号令そこでかけてください。

この後、英語です。お手洗い、お水休憩した後、並んで、英語の教室に行きます。どうぞ。

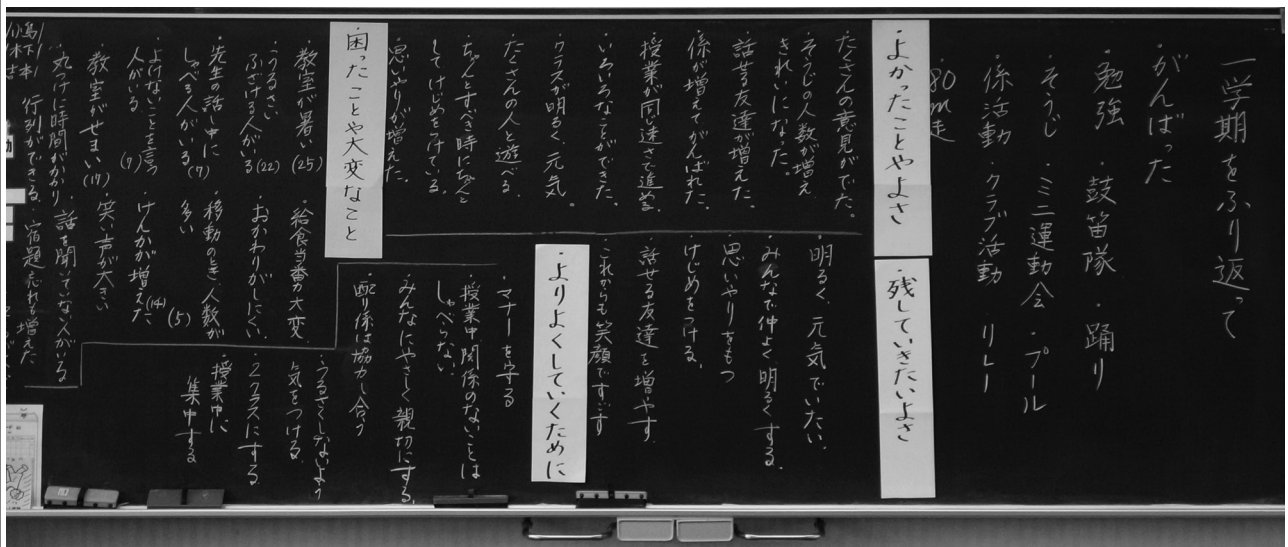
はい。じゃ、お手洗い、お水休憩してください。

(松本さん・福田さん)

これで学級活動の勉強を終わります。



(最終的な板書)



3. 進級にともなう学級規模拡大・学級数減についての学級生活の違いに対する児童の意見

学級活動において児童がワークシートに記入した4つの項目（第4学年で1学級になって「よかったと思うことやよさ」「困ったことや大変だなと思うこと」「2学期も引き続き残していきたいよさ」「困っていることや大変なことを改善するためにはどうしたらよいか」）のそれぞれについての記述内容を分類した。なお、特定の児童について言及していると思われる記述は分析から除外した。

まず、各項目に対する記述から、意味のある語句のまとまりをアイディア・ユニットとして切り出した。その結果、「よかったと思うことやよさ」については96個、「困ったことや大変だなと思うこと」については198個、「2学期も引き続き残していきたいよさ」については83個、「困っていることや大変なことを改善するためにはどうしたらよいか」については64個のアイディア・ユニットが得られた。これらのアイディア・ユニットを、専門家2名の合議により、意味が類似していた記述をまとめカテゴリー化した。その結果、「よかったと思うことやよさ」については11個、「困ったことや大変だなと思うこと」については21個、「2学期も引き続き残していきたいよさ」については8個、「困っていることや大変なことを改善するためにはどうしたらよいか」については8個のカテゴリーにまとめた。カテゴリー名と代表的な記述、ならびに各カテゴリーに言及した児童数を表1から表4に示す。

表1 「1クラスになって、よかったことやよさは、どんなことですか」に対する自由記述の分類結果

分類	代表的な記述	児童数	出現率
たくさんの友達と仲良くできる	<ul style="list-style-type: none"> ・ いままでよりいろんな子とはなすきかいがふえた ・ 話せる友達がふえた！ ・ たくさんの人とあそべるようになったのがよかった 	16	42.1%
明るく楽しい・元気・賑やか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人数がふえてクラスがあかるく元気になった ・ たのしくてにぎやかになった ・ いつもたのしくてうれしいことがあるところがいいところ 	15	39.5%
協力していろいろなことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1クラスになってよかったことは、1組2組で分けられると、にん数が少ないので、お楽しみ会やいろいろな事があまりできないので、一組になると人数がふえて、お楽しみ会やいろいろなことができる ・ 1クラスになってよかったことは、人数が多いので、1つのことが、みんなで、協力してできること ・ 3年生のときよりもみんなが協力しあった 	10	26.3%
多様な意見が出る	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの意見がでるようになった ・ はつげんがいままでよりふえた ・ いろいろな意見が2クラスより出ていいと思います 	9	23.7%
思いやりが増えた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりがふえた ・ 思いやりのある人が多くなった 	8	21.1%
係が増えた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係りの仕事がふえていいとおもいます ・ かかりの人数がふえて、やることがラクになった 	5	13.2%
掃除がきれいになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうじが3年生の時よりきれいになった ・ そうじの人数がふえてきれいになった ・ 2クラスより教室がきれいになった 	5	13.2%
楽しくまじめに授業を受けられる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生よりみんなで楽しく勉強できた ・ 先生の話をもじめにきけるようになった 	5	13.2%
けじめがつけられるようになった	<ul style="list-style-type: none"> ・ けじめがちゃんとつけられるようになった ・ ふざけているときはふざけたりして、ちゃんとするときにはちゃんとしたこと 	3	7.9%
授業進度が揃う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ速さで授業がすすむようになった 	2	5.3%
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまりはつげんしなくてすんだ ・ まちあわせ時間をきめることができる ・ その中でとくに1クラスになっていいと思ったことは運動会ががんばったことです。 ・ 冬のさむいときにギューギュー詰めになるからあったかい 	4	10.5%

表2 「1クラスになって、困ったことや大変なことは、どんなことですか」に対する自由記述の分類結果

カテゴリー	代表的な記述	児童数	出現率
うるさい	・おしゃべりが多くなってきた ・2クラスよりも1クラスは人数が多いから、うるさい ・人がいっぱいいることでうるさくてむだばなしをする人がある	25	65.8%
暑い	・人数が多くなって暑苦しくなった ・夏のは人がいっぱいいると教室暑くなった ・人数が多くてクーラーが効かない	24	63.2%
せまい	・教室がせまくなった ・うしろにランドセルがおけなくなった ・つくえとつくえのあいだがせまい	17	44.7%
友達とのトラブルが増えた	・人数が多くて、じゅんばんを、まつのがいやでわりこみをしてくる人がある ・ケンカが多くなった ・本とかがよくとりあいになったりする	15	39.5%
ふざける人が増えた	・ふざけたり、おこられたりする人が多くなった ・うるさくなったり、おふざけが多くなった ・みんながいてちょうしにのっている人がある	12	31.6%
順番を待つ時間が長い	・テストなどの丸つけがおそくなって、くぼられるじかんがおそくなった ・れんらくちょうなどにはんこをおしてもらうときに、ならぶとすごく長いつにならなければいけないときがある ・水をのむときは人数が多いからすぐに飲めない	9	23.7%
乱暴やいたずらが増えた	・ボールとかフリスビーが当たってごめんっていったのに逆ギレする人とかがある ・わるいことをしてもかげにかくれてきづかれないことがある	6	15.8%
机が多くて掃除が大変	・つくえといすがふえたからそうじがたいへんになった	5	13.2%
給食当番が大変	・給食をくばるのにすごく時間がかかる	5	13.2%
先生の話が聞こえない	・先生のはなしがよくきこえない ・うるさくて先生の話しがきこえないときがある	5	13.2%
発表や発言等の機会が少なくなった	・あまりあてられなくなった ・さされるときにいっぱいいてさされない ・はつげんできるときがすくなくなった	4	10.5%
配り係が大変	・配る人が10人いても配るものがたくさんあるから配るのにおいつかない	4	10.5%
宿題忘れや忘れ物が増えた	・宿題をわすれる人がふえた ・ものをわすれるひとがある	4	10.5%
意見が合わない	・意見が合わなくなることがある	3	7.9%
授業が進まない	・先生がしゃべっているときに口をはさんであまりじゅぎょうがすすまないこと ・おこられているひとが多すぎて、その時の時間がなくなる	3	7.9%
活動に時間がかかる	・ひとつになることに時間がかかる ・にんずうがおおくてはなしがでづらい	3	7.9%
ルールが変わって大変だった	・せんせいがかわったから3年1組のルールがあまりわからなかった ・なれるのがたいへんだった	2	5.3%
移動が大変	・いどうするときに、人数が多いとたいへん	2	5.3%
係や当番が嫌	・当番が多い ・いやな係になるときがある	2	5.3%
物を大切にしなくなった	・物を大切にしない人がふえた	2	5.3%
その他	・気が合わない人と勉強することになったりする ・一組になるといっぱいおこられてしまう ・1組になると、その前の2組の人数の2倍になってしまうから、大変です ・5分やすみにははしゃったりかんけいない人などをまきこんでいること ・先生にさされても、元氣よく「はい」と言わない人がふえた ・自分つくえにてをおかれる ・名前なしがふえた ・おかわりにくい ・きょうしつに土をもってくる ・ややこしい	10	26.3%

表3 「これからも残していきたいよさは、どんなことですか」に対する自由記述の分類結果

分類	代表的な記述	児童数	出現率
明るく楽しく 元気で賑やか でいたい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスが明るい所や元気なところをこれからも、のこしていきたい ・じゅぎょうを楽しくみんなですっとたのしくしたいです ・これからも笑顔をふやしていきたい 	25	65.8%
たくさんの友 達と仲良くし ていきたい	<ul style="list-style-type: none"> ・話せる友達をふやす ・たくさんの人と遊べるという意見はいいと思いますもっとたくさんの人と遊んでふれあいたいと思います ・これからもみんなとなかよくしていきたいです 	16	42.1%
思いやりを持 ち続けたい	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがふえたこと ・今でもクラスは明るいけどもっと思いやりをふやしてクラスを明るくしたいです 	14	36.8%
けじめをつけ たい	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんとすべき時にちゃんとして、けじめをつけているところを残して、それをひきつづきやっていきたいと思います。 	8	21.1%
いろいろなこ とにチャレン ジしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんなことにチャレンジしていけるところをそのまま5年生でもしたい 	5	13.2%
たくさんの意 見を出したい	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの意見がでること 	4	10.5%
掃除をきれい にしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・そうじの人数がふえてきれいになること 	3	7.9%
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・係がふえてがんばれたこと 	1	2.6%

表4 「困ったことや大変なことをよくするためには、どうしていきたいですか」に対する自由記述の分類結果

分類	代表的な記述	児童数	出現率
授業中は静かにする	<ul style="list-style-type: none"> 先生が話しているときに、しずかにする じゅ業中にかんけいのないことはしゃべらない 	20	52.6%
けんかをせず に仲良くする	<ul style="list-style-type: none"> 思いやる気持ちを多くしてけんかをすこしなくす けんかをへらすには、みんなに親切にやさしくする 	8	21.1%
ルールやマナーを守る	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守らない人がいたら声をかけて、おしえてあげる マナーを守る 	6	15.8%
先生の話をよく聞く	<ul style="list-style-type: none"> 話をちゃんときくには、じゅぎょうにしゅう中する 先生の話をよくきいて先生がしつもんは？ときかれたらしゃべる 	6	15.8%
暑さ対策をする	<ul style="list-style-type: none"> 下じきであおいだりして暑さをしのぐ 教室は暑いから、早く教室に帰りしたじきであおいだ方がいい 	5	13.2%
宿題忘れや忘れ物をしないように気をつける	<ul style="list-style-type: none"> 宿題を忘れないようにするためには、前の日か朝、起きてからすぐにちゃんと宿題を入れているか、たしかめる わすれものがないようにチェックする 	5	13.2%
係を手伝う	<ul style="list-style-type: none"> 配りがかりさんの人がはやくおわたらちがう配りがかりさんのおてつだいをすればいいと思う 	2	5.3%
その他	<ul style="list-style-type: none"> 2クラスにする。(理由) 暑いから すぐ逆ギレしない ケンカはこのままつづけてもいいと思います。つづきすぎるのはだめだけど、ケンカするほど仲がいいというのでいいことだと思います。それに人間一回はケンカはします みんなひとしくおかわりすればいい もうすこしもと3年2組にもあわせてほしい 	6	15.8%

4. 事後聞き取りの内容（逐語録）

4.1 校長による調査対象学級に関する解説

この学年の特徴は、1年生2年生の時は1学級、そして3年生で数人増えた結果として2学級になり、また減った結果として4年生1学級となった。つまり1年から4年でいくと、1学級・1学級・2学級・1学級と、両方知っていることとなる。児童にとっては1学級の期間が長かったことから、1学級のよさを十分に知っていると感じた。2学級にもよさがあるわけだが、どちらかと言うと4年間のうち3年間は1学級だったので、その方になじみがあるようだ。

4.2 学級担任を対象とした聞き取りの結果

(1) 第3学年時と第4学年時の学級規模の違いに焦点を当てた学級活動を実施しての感想

児童の人数が多いので、全員の意見を吸い上げるのは、限られた時間ではできない。39人全員が発言するとそれだけで授業が終わってしまうので、国語や算数などの時にはワークシートを利用して、自分の考えや思ったことを書かせておき、授業内で発表できなかった児童についてはワークシートを読んでから次の授業に生かすという形で授業を行っている。

子ども達も、学級規模の大小について両方の良いところも悪いところも分かっている。ただし、人数が増えらうるさくなるという意識はすごく強いようだ。授業中はお話を聞くということを授業の中でねらいとしてやってきている。話を聞くときは静かに聞くことを約束ごととしてずっと学習規律として育ててきたが、人数が増えれば、ザワザワしてしまうこともある。一方で、子ども達は、授業をまじめに受けたいという気持ちはすごく強いことも、今回の学級活動で改めて感じた。

人数が多いことで友達との関係は良くなっていくこともあり、ちょっとケンカをしてしまったので、距離を置いてということが出来る。人数が少ないと、距離を置くこともできないっていう人間関係になってしまう。友達関係・人間関係としては、人数が多いことで子ども達はそこでの成長が見られることも感じた。

(2) 学級規模が大きくなって「思いやりが増えた」という意見が多く出されたことについて

みんなで学級目標を決めた時に思いやりという言葉が多く出てきた。今までは1人に対して20人弱が思いやっていたところが、今度は38人がその1人を思いやりながら関わっていける。このことが、おそらく思いやりが増えたという意見につながっている。

また、掃除や給食の時は、去年までは人数が少なかったので、あっという間に掃除や給食の準備が終わっていた。今はその2倍の数があるので、協力し合わないと、早く給食の配膳が終わらない。掃除も終わった人から終わってないところを手伝うという形にしているので、自分の仕事がきれいに終わったところは机運びが終わってないなら手伝うよという形で、だれかが終わってないのならみんなで手伝おうという雰囲気がある。掃除中にふざけている子もおらず、自分の持ち場が終わったら、「ここを手伝いますね」とか「ここをやるね」という形の声がかかっている。人数が少ないときは、担当範囲が大きくなり、自分の担当箇所を掃除するだけで精一杯だった。

(3) 学級規模が大きくなって「ちゃんとする時にはちゃんとする」という意見が多く出されたことについて

話を聞くとときや団体行動をとるときには、子どもの中で、人数が増えたからよりちゃんとしなきゃいけないという意識が強いと思う。人数が多いと集合にもより時間がかかり、やりたいことができなくなってしまうということも関係しているのかもしれない。一方では、ちゃんとする時はちゃんとしているという話が出ていて、他方ではおふざけが増えたとか、うるさくなったという話が出てきている。これは去年学級が2つに分かれていたため、昨年度の各学級の特性が出たのかもしれない。

(4) 複数学級と単学級の場合の授業の進度について

この学年が2学級だったときには、一方の組はすぐに理解できても、他方の組は時間がかかるということもあったので、進度が違ったという意見が出たのかもしれない。おそらく子ども達はどこまで進んだかという話をお互いに行っていたのだろう。ただし、このことについては、保護者の方から指摘を受けたことはない。

(5) 教室環境について

困っていることとなると設備面のことになる。設備面とか自分達が置かれている状況についてちょっと苦痛を感じる場面もあるようだ。教室が狭いとか、暑いとかという物質的なことが出ていたと思うが、それはもう日々生活していく中での苦痛として困っているということになる。

子どもは、校庭で活動してから帰ってきた後に体から発する熱がすごい。教室の空間は限られているので、人数が増えると通路も狭く、きゅうきゅうとしてしまう。暑さだけが学力に直接的につながるわけではないが、できれば快適な環境で学習したいという気持ちはあると思う。

ちょうどいい教室環境と、様々な活動する場面を保証する人数としては、本当は30人前後が一番だと思う。20人では少ないし、40人では多いしというところ。本当に30人ぐらいまでが、何をするにしても、ちょうどいい形でできる人数と思う。35人でもちょっと多いかなと思ってしまう。集団として動くのであれば、少な過ぎても多過ぎても弊害がある。30人ぐらいの人数で編成し、活動して、学級活動もして学習活動もできるとなると、一番やりやすい。子ども達も快適に過ごせるだろうし、指導する側としてもちゃんと一人ひとりに焦点を当ててできると思う。

(6) 授業中における先生の声について

教室にいる児童の人数が多いと声を張り上げないといけない。人数が多いほど声が児童の体に吸い取られていくので、人数の少ないときとは声の大きさは違う。声を張り上げるというのは、かなり体力を消耗する。

授業では、明確に理解できる言葉を選んで指導するように心がけている。最後にちゃんと、質問はありませんかということを聞いてから聞き漏らしたことについて答えていく形にし、子ども達も今はまず聞いておかなければならず、その後に質問をしようという思考になるようにやってきている。子ども達に安心してちゃんと最後まで聞いた後に質問できることを理解してもらおうとしている。

(7) 授業中の個別指導に要する時間について

ノートのマルつけについては、教室が狭いので教員が回るようにしている。子ども達が動くとかかなり大変なことになる。また、事前にできた児童からノートを提出させて、休み時間にノートを見て返すという形にして、なるべく待ち時間を減らすようにもしている。

学習活動の最中では、できた児童から順に提出させて確認した上で、ちょっと今悩んでいる子のところにミニ先生として行ってねという形にして、できる子とできない子の差が縮まるようにしている。できる子も人に教えることによってさらに理解を深め、できない子はサポートもらうことでなるべく差が縮まるように進めている。しかし人数が多いと、それに応じて教員が一人ひとりのできを確認する時間もかかるため、初めにできた子を確認してから最後にできた子を確認するまでにかなりの時間差が生じる。ミニ先生お願いしますって言うと、じゃあ教えてあげるよって、答えだけを教えるのではなくやり方を教えてあげるんだよという形で、喜んで子ども達もやってくれている。

1 授業時間当たりの主体的に勉強している時間については、人数が少ない方がじっくり取り組ませる時間も確保しやすく、長かった。人数が多いときには、時間が短くならざるを得ない。

(8) 宿題の点検について

宿題の分量は昨年度の3年生時と大体同じである。宿題は必ずやってくるものという意識がちょっと薄れている児童が何人かいる。宿題は必ずやってくるものであり、その日の復習なのだという事を指導している。提出された宿題で出席を確認しているので、宿題を返却するときに呼ばれない人は宿題を出していないということが分かる。

集めた宿題の点検については、漢字ノートは、預かってマルつけをしてチェックをする。算数プリントに関しては講師が来てから、チェックをしてもらっている。音読カードは担任が出席をとりながらチェックしている。算数プリントに関しては講師、漢字は担任という形で担当を決めている。チェックにはかなり時間がかかる。漢字のノートについては訂正などをしていると、休み時間中ずっとかかってしまう時もある。1人当たり30秒かかったとしても、39冊あれば20分くらいかかる。

マルつけはその日のうちにやり、子どもが帰るまでにノートは返すということを心がけている。

(9) 通知表の所見の記入について

通知表の所見を書く時にかかる時間や労力は 20 人の時と 39 人の時で大きく異なり、単純に倍になった以上の負荷がある。一人ひとりの良いところ、1 学期のうちに頑張っていたところをくみ取った上で書いてあげたい。まずは日々頑張っていることをまとめて、そこから文章を作っていく。書く欄も所見欄と総合的な学習の時間のところと、英語活動の 3 種類あるので、かなり時間がかかる。

最終的に成績が出るのが、学期末のテストが終わるぎりぎりになってしまうので、短い期間の中で、40 人を見るのと 20 人を見るのでは、少し見方が違ってくる部分がある。できるだけ一つひとつ児童の良いところ、今回はこんなふうに頑張ったというところを保護者にも伝えることができる内容を書きたいと思っている。しかし、学期末という時間的な制約に加えて、目を配るべき児童の数が多くなったことによる情報量の増加が、負担となっている。

1 人当たりの記述分量は今年の方が多。昨年度までは手書きであったが、今年度からパソコンに入力したものを打ち出すことになり、記述欄が広がった。パソコンだと大体 1 人平均 200 字くらいとなり、手書きだと 120 字くらいだった頃に比べて増えた。単純な入力作業だけを考えると人数が半分であれば作業量は半分ですむが、一人ひとりの所見をまとめるのには人数が多い方が複雑になるために時間がかかる。

(10) 先生にとっての学級規模が大きくなったことのよさと困ったこと

教員としてたくさんの児童と関われること、たくさんの笑顔が日々見られること、それぞれ違った成長の仕方で成長していく様子が見られることが、自分に関わる児童が増えることのよさであると思う。

学級規模が大きくなって一番困るのは、やはりマルつけなどの確認作業に時間がかかるということである。授業の中では、1 人必ず 1 日 1 回は声を発言の中で聞いてあげたいと

思うが、そこがかなわない時がある。作業面でやることが多いと、児童一人ひとりのよさを十分に生かしてあげられない場面が増えてしまう。

困ったことや大変なことをよくするためには、なるべく作業は能率的に行いたい。講師と力を合わせるとある程度は作業面の時間不足解消できると思う。発言の場面という部分では、6時間授業がある中で必ず児童全員の声が聞けるように工夫していく必要があると思う。

5. 総合的考察

学級規模の拡大と2学級が1学級となったことに対するよさについて、学級活動において児童にワークシートへの記入を求めた際に「何個でもいいですか」という反応があった。一方、困ったことについて記述を求めた際にも「いっぱいある」といった発言があった。このように学級規模の拡大と2学級が1学級になったことにともなうよさも困ったことも、児童は複数持っていることがうかがえる。自由記述のアイディア・ユニット数を比較すると、「よかったと思うことやよさ」については96個、「困ったことや大変だなと思うこと」については198個であった。児童1人あたりに換算すると、前者は2.5個、後者は5.2個であり、学級規模の拡大や単学級になったことで困ったことの方が倍以上だった。

児童どうしの相互作用に着目すると、学級活動では「たくさん意見が出るようになった」「みんなと話す機会が多くなった」という発言があった。また、ワークシートに「たくさんの友達と仲良くできる」といった内容を記述した児童は42.1%だった。これらのことから、20人程度規模だった昨年の学級と比べて、40人規模になった学級の方が、児童にとって授業中に多くの友達の意見を聞くことができたり、授業以外でも児童どうしの交流が活発になったりしたことがうかがえる。しかし、学級活動において「けんかが増えた」という発言があったほか、ワークシートにおいて「友達とのトラブルが増えた」を挙げた児童が39.5%、「ふざける人が増えた」を挙げた児童が31.6%、「乱暴やいたずらが増えた」を挙げた児童が15.8%であった。これらの点から、学級規模が大きくなったことで多くの児童と交わるようになったため、児童どうしのトラブルもまた増えたと考えられる。このような状況に対して、学級活動の「困ったことをもっとよくするためにはどうしたらいいか」を協議する部分で「思いやり」という発言があったことや、ワークシートに「けんかをせずに仲良くする」(21.1%)や「ルールやマナーを守る」(15.8%)といった内容の記述も見られたことから、学級規模が大きくなり多くの児童と交わることにともなうトラブルが起こらないように気をつけている児童もいたことが示された。

しかし、学級規模が大きくなることで、このようなトラブルの増加ばかりではなく、児童どうしが気遣い合うことが増えたことも示された。学級活動において「思いやりが増え

た」という発言があったほか、ワークシートに同様の内容を記述した児童も 21.1% であった。さらに、「人数が増えてクラスが明るく元気になった」といったような記述をした児童も 4 割近く (39.5%) にのぼった。このようなよさを引き続き残していきたいという意見が学級活動において出されたほか、ワークシートに「クラスが明るいところや元気なところをこれからも残していきたい」といった記述をした児童が 65.8% だったことに加えて、「これからも思いやりも持ち続けたい」といった記述をした児童も 36.8% だった。これらの点について学級担任は事後の聞き取りで、20 人規模学級だった際には 20 人弱の児童が 1 人の児童を思いやっていたが、39 人学級となったことで 38 人が 1 人の児童を思いやるようになったことが、このような考えを児童がもつに至った背景にあるのでは、といった見解を示した。

授業については、40 人規模の単学級となったことにともなうよさとして、先に言及した、授業中に多くの友達の意見を聞くことができたといった学級活動における児童の発言が挙げられる。同様の意見はワークシートの自由記述においても見られた (23.7%)。さらに、学級活動では「3 年生より先生の話をもじめに聞ける」という発言もあり、また同様の意見をワークシートに記入した児童は 13.2% だった。しかし、困ったこととして「うるさい」(65.8%), 「先生の話が聞こえない」(13.2%), 「発表や発言の機会が少なくなった」(10.5%), 「授業が進まない」(7.9%) といった意見がワークシートの記述において見られた。

以上の点から、学級規模が大きくなることで生じた学習規律の維持の難しさや、授業の受けにくさを児童が気にしていることが推察できる。これらの状況に対して、児童は「授業中に関係ないことはしゃべらない」や「話をきちんと聞いて授業に集中する」「小さい声で笑ったり、手で押さえて笑う」等、学習態度を改善したりマナーを守ったりしていく必要があるといった意見を述べており、学級規模の拡大にともなって学習規律を守ることがより重要視するようになったことも示された。学級担任が事後の聞き取りで「子ども達は授業をまじめに受けたいという気持ちがすごく強い」といった見解を示しているように、学級規模が大きくなって授業規律の維持が難しい中でも、児童の多くが授業規律を守りきちんと授業を受けようとする意識を持ち、それを行動に移そうとしていることがうかがえる。

清掃や係活動をはじめとした日常的な学校生活に関しは、「掃除が上手になった」「係が多くなって頑張れた」といった発言があった。自由記述でも、「人数が増えたのでお楽しみ会やいろいろなことができる」「ひとつのことがみんなで協力してできる」といった「協力していろいろなことができる」を挙げた児童が 26.3% だった。これらのことから、児童は人数が増えることで学級内での役割を分担できたり、少人数の学級では行いにくいことができたりといった点を学級規模拡大の肯定的な側面として捉えていることが分かる。一方、学級の人数が増えたことで、時間や手間がかかるようになったことも多く挙げられた。例えば、「給食当番のときに配るのが大変」「移動の時に人数が多いから大変」といった発言が見られる。自由記述でも、「(ノートの丸つけを含めて)順番を待つ時間が長い」(23.7%)、「机が多くて掃除が大変」(13.2%)、「給食当番が大変」(13.2%) 等が挙げられており、学級規模が大きくなったことで、20 人程度規模の学級に在籍していた際には円滑だった行動に困難がともなうようになったと感じていることが示唆された。このような困難に対して、学級活動での「配り係を手伝う」といった発言に見られるように、児童どうしが協力することで乗り越えようと考えていた児童もいた。

学習環境に関しては、学級活動における発言、ワークシートにおける自由記述の両方で、暑い、狭いといったネガティブな側面のみが挙げられた。学級活動では「困ったこと、大変なこと」に関して、真っ先に「人数が多くてあまりクーラーが効かない」という意見が出ており、続いて「暑苦しいって書いた」「もう汗，だらだら」といったつぶやきもあった。狭さに関しても「教室が狭い」という発言の後に「キター」というつぶやきがあり、発言者以外の児童も教室の狭さを強く感じていることがうかがえる。自由記述でも、「暑い」を挙げた児童が 63.2%、「狭い」を挙げた児童が 44.7% といずれも多い。学級担任に対する聞き取りでも「教室が狭いとか、暑いとかという物質的なことが出ていたと思うが、それはもう日々生活していく中での苦痛として困っているということになる」「人数が増えると通路も狭く、きゅうきゅうとしてしまう」といった見解が示された。

このように、児童も学級担任も、学級規模の拡大にともなって、物理的な学習環境の快適さが低下したと強く感じていることがうかがえる。しかし、この改善のために実際に行える案は、「困ったことや大変なことをよくするためにはどうしていきたいですか」とい

う点を協議した学級活動における発言もなく、ワークシートの記述にも見られなかった。児童からは、暑さ対策として「扇風機を持ってくる」「下敷きであおぐ」「2クラスにする」等の意見が出たが、それが現実的ではないことを児童は了解していると思われる。学級規模の拡大にともなう物理的な学習環境の変化は避けがたく、対応のしようもないことと捉えられていると考えられる。

以上のように、学級規模の拡大および学級数減にともなう学級生活の変化に関して、児童は利点と難点の両面を認知していたものの、難点の方が多く認知されていた。利点は今後も生かし、また残していきたいという意識が強く、難点に対しても一人ひとりの心がけと児童どうしの協力によって乗り越えようとしていることが示された。中でも「困ったことや大変なことをよくするためには、どうしていきたいですか」ということに対する自由記述を分類した結果では、「授業中は静かにする」といった内容を挙げた児童が半数以上であった。このことは児童の注意が、学級規模が大きいことで乱れやすい学習規律の維持に多く向けられていることのあらわれとも考えられる。本来、授業においては児童が注意を向けるべきは学習内容に対してである。学習規律の維持は授業の成立の前提条件ではあるが、学級規模が大きいことで児童が学習規律に対してより注意を向けざるを得なくなり、学習内容に対して十分な注意を向けられない状況が生じる可能性は無視できないだろう。

学級規模の及ぼす教育効果に関する研究（学習成果班）
進級時の学級規模拡大にともなう学級生活の違いに対する児童の認知
報告書

平成 25 年（2013 年）3 月
発行者 国 立 教 育 政 策 研 究 所
100-8951 東京都千代田区霞が関 3－2－2
電話 03－6733－6833（代表）